

09/319741
PCT/JP98/04629

6

14.10.98

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

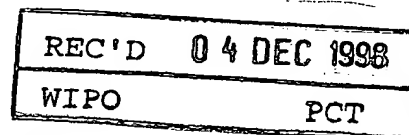
EAKU

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1997年10月15日



出 願 番 号
Application Number:

平成 9年特許願第282148号

出 願 人
Applicant (s):

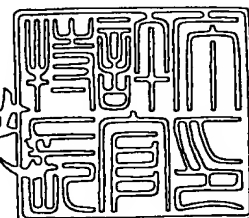
ユニ・チャーム株式会社
大日本印刷株式会社

PRIORITY DOCUMENT

1998年11月20日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

山 佐 建 夫



出証番号 出証特平10-3092262

【書類名】 特許願

【整理番号】 11249501

【提出日】 平成 9年10月15日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B65D 43/00

【発明の名称】 開閉自在容器

【請求項の数】 13

【発明者】

【住所又は居所】 愛媛県川之江市川之江町 2.5 2 9 - 2 2 9 ロイヤルハ
イツ 5 0 2

【氏名】 坂 東 健 司

【発明者】

【住所又は居所】 香川県観音寺市中田井町平塚 6 3 2 - 1 3

【氏名】 田 中 良 和

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株
式会社内

【氏名】 亀 田 克 巳

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【住所又は居所】 愛媛県川之江市金生町下分 1 8 2 番地

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代表者】 高 原 慶一朗

【特許出願人】

【識別番号】 000002897

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号

【氏名又は名称】 大日本印刷株式会社

【代表者】 北 島 義 俊

【代理人】

【識別番号】 100064285

【弁理士】

【氏名又は名称】 佐 藤 一 雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100069523

【弁理士】

【氏名又は名称】 前 島 旭

【選任した代理人】

【識別番号】 100091982

【弁理士】

【氏名又は名称】 永 井 浩 之

【選任した代理人】

【識別番号】 100096895

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡 田 淳 平

【手数料の表示】

【納付方法】 予納

【予納台帳番号】 004444

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9006445

【包括委任状番号】 9205774

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 開閉自在容器

【特許請求の範囲】

【請求項1】

取出口が形成された上板と、上板から下方へ延びる側板とを有し、下方が開口した容器本体と、

容器本体の側板に揺動自在に取付けられ、取出口を密閉する開閉蓋と、

容器本体の下方開口を密閉する底蓋とを備え、

蓋本体と開閉蓋との間の揺動部に、開閉蓋を開方向に向って付勢する弾性付勢手段を設け、

開閉蓋の自由端に係止部を設けるとともに、容器本体に係止部に係合する係合部を設けたことを特徴とする開閉自在容器。

【請求項2】

容器本体は、上板から側板との間に延びる傾斜板を有し、

係合部はこの傾斜板に対応する内壁に設けられていることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項3】

容器本体は開閉蓋の自由端側に、垂直板とこの垂直板の上端から水平方向外方へ延びる水平板とからなる作動体を有し、係合部は垂直板に設けられていることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項4】

作動体は容器本体から取外し自在となっていることを特徴とする請求項3記載の開閉自在容器。

【請求項5】

開閉蓋の基端に揺動軸が設けられ、この揺動軸は容器本体の閉止された受部内に収納されることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項6】

開閉蓋には、容器本体側へ延びる枠体が設けられ、

容器本体には開閉蓋の枠体に係合する内リブと、外リブが設けられていること

を特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項7】

内リブと外リブとの間に、枠体下端に当接するパッキンを設けたことを特徴とする請求項6記載の開閉自在容器。

【請求項8】

開閉蓋には、容器本体側へ延びる枠体が設けられ、
容器本体には開閉蓋の枠体に当接する傾斜面を形成したことを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項9】

開閉蓋には、容器本体側へ延びる枠体が設けられ、
枠体は容器本体に一体成形されるとともに、弾性体から構成されていることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項10】

容器本体の側板下端に連結リブが設けられ、
底蓋の周縁部には、連結リブが挿着する一对の係合リブと、連結リブを一对の係合リブ側へ導く傾斜リブとが設けられていることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項11】

弾性付勢手段は板ゴムからなるとともに、蓋本体と開閉蓋との間の揺動部の中心からずれて配置されていることを特徴とする請求項1記載の開閉自在容器。

【請求項12】

板ゴムは容器本体に水平方向に配置して固定されていることを特徴とする請求項11記載の開閉自在容器。

【請求項13】

板ゴムは容器本体に水平方向に配置され、容器本体に嵌込まれるゴム押えによって上方から固定保持されていることを特徴とする請求項12記載の開閉自在容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、容易に開閉することができる開閉自在容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

内容物、例えばウェットティッシュを内部に収納する容器は、ウェットティッシュの取出口を有するとともに、この取出口は開閉蓋により開閉自在に密閉される。

【0003】

すなわち、このような容器はウェットティッシュを収納するとともに取出口を有する容器本体と、取出口を密閉する開閉蓋とを備えている。

【0004】

使用に際しては、容器本体の取出口に対して開閉蓋が開かれ、容器本体の取出口からウェットティッシュが一枚ずつ取出される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

上述のように、従来の容器は容器本体と、この容器本体に対して揺動自在に取付けられた開閉蓋とを備えており、使用に際しては開閉蓋をいちいち揺動させて開いている。

【0006】

このような場合、開閉蓋を確実にワンタッチで開くことができれば都合が良い。また開閉蓋の形状を大きく取ることができれば、これに合わせて容器本体の取出口周縁を大きくすることができ、ウェットティッシュを取出口から容易に取り出すことができる。

【0007】

本発明はこのような点を考慮してなされたものであり、容易かつ確実に開閉蓋を開くことができ、かつ開閉蓋の形状を大きく取ることができる開閉自在容器を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明は、取出口が形成された上板と、上板から下方へ延びる側板とを有し、下方が開口した容器本体と、容器本体の側板に揺動自在に取付けられ、取出口を密閉する開閉蓋と、容器本体の下方開口を密閉する底蓋とを備え、蓋本体と開閉蓋との間の揺動部に、開閉蓋を開方向に向って付勢する弾性付勢手段を設け、開閉蓋の自由端に係止部を設けるとともに、容器本体に係止部に係合する係合部を設けたことを特徴とする開閉自在容器である。

【0009】

本発明によれば、係止部と係合部の係合を解除することにより、開閉蓋が弾性付勢部材によって開く。この場合、開閉蓋は容器本体の側板に設けられているので、上板に設ける場合に比較して開閉蓋の形状を大きく取ることができる。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図1乃至図8は本発明による蓋装置の一実施の形態を示す図である。

【0011】

図1乃至図8に示すように、開閉自在容器10は、内部にウェットティッシュ41（図4参照）を収納する下方開口型の容器本体11と、容器本体11の下方開口を密閉する底蓋12とを備えている。また容器本体11は取出口24が形成された上板27と、上板27から下方へ延びる側板13とを有し、容器本体11の側板13には上板27の取出口24を密閉する開閉蓋23が揺動自在に取付けられている。

【0012】

この場合、図5に示すように、開閉蓋23には揺動軸77が一体的に形成され、揺動軸77は容器本体11の側板13側に配置されている。また揺動軸77の突起77aが容器本体11の受部29内に挿入されて、容器本体11に対して開閉蓋23が揺動するようになっている（図8）。また図8に示すように、容器本体11の受部29内は閉止されており、容器本体11の受部29は貫通していない。このため容器本体11内の湿気が受部29から外方へ漏れることはない。

【0013】

また容器本体11の上板27はその略中央部の第1上板(第1薄板)27aと、第1上板27aの外側に段部28を介して設けられ、第1上板27aより高い位置にある第2上板(第2薄板)27bとからなっている。また第1上板27aには、ウェットティッシュ41を取出すための取出口24が設けられ、取出口24の周縁に周縁部24aが設けられるとともに、この周縁部24aは、下方部において曲線状の断面を有している。このためウェットティッシュ41が取出口24の周縁部24aを通過する際、周縁部24aに引掛ることなくスムーズに通過することができる。また第1上板27aには、取出口24を囲んで外リブ51と内リブ52とが円周状に設けられている。

【0014】

一方、開閉蓋23の内面には、第1上板27aの外リブ51と内リブ52との間に入り込む枠体37が設けられている。そして、揺動軸77を中心として開閉蓋23を回動し、外リブ51と内リブ52間に枠体37を嵌込むことによって、開閉蓋23が取出口24を密閉するようになっている。

【0015】

さらに図1および図3に示すように、開閉蓋23の自由端には先端リブ36が突設され、この先端リブ36に係止片32が設けられている。

【0016】

他方、容器本体11のうち段部28には、開閉蓋23に係止片32と係合する係合突起33が設けられている。この場合、容器本体11は、上板27から側板13の間に傾斜板31を有しており、係合突起33が設けられた段部28は傾斜板31に対応する内壁を構成している。さらにまた傾斜板31には、係合突起33に対応する領域31aを囲むように薄肉部35が形成されている。そして領域31aを押圧することにより領域31aが下方へ撓んで開閉蓋23に係止片32と段部28の係合突起33との係合が解除されるようになっている。

【0017】

また図1および図5に示すように、容器本体11と開閉蓋23との間に、開閉蓋23を開方向に向って付勢する細長状の板ゴム50が設けられている。すなわ

ち、容器本体 11 には、板ゴム 50 の一端を差込み収納する収納部 75 が設けられ、また開閉蓋 23 には容器本体 11 から所定間隔をおいて配置されるとともに板ゴム 50 の他端を固着する固着部 76 が設けられている。この場合、板ゴム 50 に開閉蓋 23 から突出する突起 78 が挿入されて板ゴム 50 の位置決めが行われ、その後板ゴム 50 が固着部 76 によって固定される。

【0018】

また図 1 に示すように、板ゴム 50 は容器本体 11 と開閉蓋 23 との間の中心に対して右側へずれて配置されている。

【0019】

上述のように開閉蓋 23 を容器本体 11 の側板 13 に設けることによって開閉蓋 23 の形状を大きくとれることができる。この場合、開閉蓋 23 の形状を大きくとり、さらに板ゴム 50 を右側へずらすことにより取出口 24 の周縁面積を大きくとって、ウェットティッシュ 41 の取出作業を容易に行うことができる。

【0020】

蓋本体 21 に対して開閉蓋 23 が閉となった場合、図 5 に示すように板ゴム 50 は開閉蓋 23 内に入り込むように湾曲し、開閉蓋 23 を開方向に向って付勢するようになっている。この場合、板ゴム 50 を開閉蓋 23 から離れる方向に湾曲させてもよい。

【0021】

次に図 6 および図 7 により、容器本体 11 と底蓋 12 との連結関係について述べる。図 6 および図 7 に示すように、容器本体 11 の側板 13 下端には連結リブ 13a が設けられるとともに、底蓋 12 の周縁部には一对の係合リブ 12a、12b が設けられている。そして底蓋 12 の一对の係合リブ 12a、12b 内に側板 13 の連結リブ 13a を挿着することにより、容器本体 11 と底蓋 12 とが連結される。

【0022】

また、図 6 および図 7 に示すように、底蓋 12 の結合リブ 12b の内側には、側板 13 の連結リブ 13a を一对の係合リブ 12a、12b 間に導く傾斜リブ 12c が設けられている。

【0023】

なお、上述した容器本体11、底蓋12および開閉蓋23は、いずれもポリプロピレン（PP）を用いたインジェクション成形により得られるが、この他にPE、PS、ABS、エラストマー、PET、PVC、ポリカーボネートを用いて成形してもよい。

【0024】

次に図4により、容器本体11内に収納されるウェットティッシュ41について説明する。図4（a）に示すように、ウェットティッシュ41は柔軟なシートからなる密閉袋40内で折畳まれて積層配置され、この密閉袋40によって密閉される。各ウェットティッシュ41は折曲部42を形成して略二つ折りされ、各ウェットティッシュ41の折曲部42は交互に入れ替わっている。またウェットティッシュ41の二つ折りされた下半分41bは、下方に配置するウェットティッシュ41の上半分41aと更に下方に位置するウェットティッシュ41の上半分41aとの間に挿入されている。このためウェットティッシュ41を一枚ずつ摘んで取出した場合、取出したウェットティッシュ41の下半分41bが、下方に位置するウェットティッシュ41の上半分41aを引張り上げるようになっている。なお、ウェットティッシュ41の折り方は、連続的に取り出すことができるように積層配置されていればよく、特に限定されるものではなく、例えば図4（b）のような折り方であってもよい。また密閉袋40の上端に開口40aが設けられ、この開口40aは密閉袋40上面に取外自在に貼付けられた蓋片45により密閉されている。

【0025】

ウェットティッシュ41の素材としては、例えば、不織布、紙、ガーゼ等の繊維素材やシート状の発泡体、または紙ベースの軟質材料が用いられる。またウェットティッシュに含浸させる液体としては、殺菌剤、消毒剤、洗浄剤等を含んだ湿潤剤や化粧水や乳液等の化粧品が考えられる。

【0026】

次にこのような構成からなる本実施の形態の作用について説明する。

まず、板ゴム50の一端が蓋本体21の収納部75内に差込み収納されるが、

板ゴム 50 の他端は予め開閉蓋 23 の所定位置に突起 78 により位置決めされた後固着部 76 により固着されている。

【0027】

次に容器本体 11 内にその下方開口から、密閉袋 40 によって密閉されたウェットティッシュ 41 が収納される。その後容器本体 11 の連結リブ 13a が底蓋 12 の一对の係合リブ 12a、12b 間に挿着され、容器本体 11 の下方開口が底蓋 12 により密閉される。この場合、容器本体 11 の連結リブ 13a は底蓋 12 の傾斜リブ 12c により一对の係合リブ 12a、12b 側へ導かれるので、容器本体 11 と底蓋 12 との連結を容易に行うことができる。

【0028】

次に開閉蓋 23 が容器本体 11 に対して閉方向へ移動し、開閉蓋 23 の係止片 32 に容器本体 11 の係合突起 33 が係合して、容器本体 11 の取出口 24 が開閉蓋 23 により密閉される。このとき、開閉蓋 23 の枠体 37 が容器本体 11 の外リブ 51 と内リブ 52 との間に入り込んで、枠体 37 内を密閉状態に維持する。

【0029】

また図 1 に示すように、板ゴム 50 は容器本体 11 から所定間隔をおいて配置された固着部 76 により固着されているので、板ゴム 50 は開閉蓋 23 のうち揺動軸 77 から少し内側に入った固着部 76 を作用点として開閉蓋 23 を上方へ持ち上げる。一般にウェットティッシュ容器 10 は夏場の室内等、比較的高温室内で用いられるため、容器本体 11 および開閉蓋 23 は軟化しやすくなっている。本願発明によれば、板ゴム 50 が開閉蓋 23 のうち揺動軸 77 から少し内側に入った作用点を上方に持ち上げるので、揺動軸 77 近傍を作用点とする場合に比べて開閉蓋 23 の揺動端の変形を防止することができる。

【0030】

ウェットティッシュ 41 の使用時には、傾斜板 31 の領域 31a を上方から押圧することにより、容器本体 11 の上板 27 を撓ますことなく領域 31a のみを薄肉部 35 の水平方向部分 35a を中心として回動させながら撓ませることができ、このことにより、係止片 32 と係合突起 33 との係合を解除することができ

る。この場合、板ゴム50の復元力により、開閉蓋23は揺動軸77を中心として回転し、開閉蓋23が開となる。

【0031】

次に容器本体11の取出口24からウェットティッシュ41を指で摘んで上方へ引張る。その後、連続して、ウェットティッシュ41を引張ることにより、第1番目のウェットティッシュ41を容器本体11内から取出すことができる。この場合、第2番目のウェットティッシュ41の上半分41aが、第1番目のウェットティッシュ41の下半分41bによって引張られる。そして、第2番目のウェットティッシュ41の上半分41aが、取出口24の周縁部24aに引掛かった時点で、第2番目のウェットティッシュ41が停止する。

【0032】

以上のように本実施の形態によれば、傾斜板31の領域31aを押圧することにより、この領域31aが薄肉部35の水平方向部分35aを中心として撓むので、領域31aの内壁を構成する段部28に設けられた係合突起33と開閉蓋23の係止片32との係合を直接的かつ確実に解除することができる。

【0033】

また開閉蓋23が容器本体11の側板13に揺動自在に設けられているので、開閉蓋23の形状を大きくとることができる。さらに板ゴム50を容器本体11と開閉蓋23の間において中心から右側へずらすことにより、開閉蓋23の形状を大きくとることと合わせて、取出口23の周縁面積を大きくとることができる。

【0034】

次に図9および図10により、本発明の他の実施の形態について説明する。図9および図10に示す実施の形態は、容器本体11のうち開閉蓋23の自由端側であって側板13上端近傍に、上板27から落込む段部58を形成するとともに、この段部58内に垂直板55aを設けたものである。垂直板55aには薄肉部59が形成され、さらに垂直板55aの上端には水平方向外方へ延びる水平板55bが取付けられている。また開閉蓋23の係止片32に係合する係合突起33は、垂直板55aの内面に設けられ、垂直板55aと水平板55bとによって、

開閉蓋 23 を開とする作動体 55 が構成されている。

【0035】

図 9 および図 10 においてその他の構造は、図 1 乃至図 8 に示す実施の形態と略同一である。図 9 および図 10 において、図 1 乃至図 8 に示す実施の形態と同一部分には同一符号を符して詳細な説明は省略する。

【0036】

図 9 および図 10 において、作動体 55 の水平板 55b を下方へ押圧することにより垂直板 55a が薄肉部 59 を介して矢印 L 方向へ回動する。このことにより開閉蓋 23 の係止片 32 と垂直板 55a の係合突起 33 との係合が解除される。

【0037】

なお、図 9 および図 10 に示す作動体 55 の代わりに、図 11 に示すように垂直板 56a と、垂直板 56a の上端に取付けられた水平板 56b と、垂直板 56 の下端に取付けられた連結板 56c とからなる作動体 56 を設けてもよい。図 11 に示すように、作動体 56 は連結体 56c の連結リブ 59 を容器本体 11 の段部 58 に差し込むことにより容器本体 11 に取外し自在に連結されている。

【0038】

次に図 12 乃至図 14 により、本発明の更に他の実施の形態について説明する。

【0039】

図 12 乃至図 14 に示す実施の形態は、開閉蓋 23 の枠体 37 と容器本体 11 との密封構造が異なるのみであり、他は図 1 乃至図 8 に示す実施の形態と略同一である。

【0040】

図 12 乃至図 14 において、図 1 乃至図 8 に示す実施の形態と同一部分には同一符号を符して詳細な説明は省略する。

【0041】

すなわち、図 12 に示すように、開閉蓋 23 の枠体 37 は容器本体 11 の外リブ 51 と内リブ 52 との間に入り込み、この枠体 37 は外リブ 51 と内リブ 52

との間で密封状態で挟持されている。

【0042】

図12において、枠体37内は外方と略密封状態で遮断されるので、容器本体11内の湿気を外方へ漏洩させることはない。

【0043】

また図13に示すように、容器本体11の外リブ51と内リブ52との間にパッキン53が設けられ、開閉蓋23の枠体37の先端をパッキン53に当接させてもよい。

【0044】

さらにまた図14に示すように、開閉蓋23の枠体37をエラストマ製とし、開閉蓋23とエラストマ製の枠体37を2色成形により成形してもよい。図14において、エラストマ製の枠体37は、容器本体11の上板27に当接する。

【0045】

次に図15により本発明の更に他の実施の形態について説明する。

【0046】

図15に示す実施の形態は、容器本体11のうち開閉蓋23の自由端側に段部58を形成するとともに、この段部55に垂直板55aと水平板55bとからなる作動体55を設けたものである。また開閉蓋23の係止片32に係合する係合突起33は、作動体55の垂直板55aの内面に設けられている。

【0047】

また容器本体11の外リブ51と内リブ52のうち、内リブ52の外リブ51側の面52aは、開閉蓋23の枠体37が当接する傾斜面となっている。

【0048】

図15において、その他の構造は図1乃至図8に示す実施の形態と略同一である。図15において、図1乃至図8に示す実施の形態と同一部分には同一符号を符して詳細な説明は省略する。

【0049】

図15に示すように、内リブ52に枠体37に当接する傾斜面52aを設けたので、外リブ51と内リブ52との間にウェットティッシュ41の残留物が残っ

ても、枠体37と傾斜面52aとの間でウェットティッシュ41の残留物を外方へ送り出すことができる。このことにより枠体37と傾斜面52aとの間の密封性を保つことができる。

【0050】

次に図16(a)(b)により、本発明の更に他の実施の形態について説明する。図16(a)(b)に示す実施の形態は、板ゴム50の一端を収納部75内に収納する代わりに、板ゴム50の一端を密封容器11の上板27に水平方向に配置するとともに、ゴム押え79により板ゴム50の一端を固定したものである。図16(a)(b)において、他の構造は図1乃至図8に示す実施の形態と略同一である。

【0051】

図16(a)(b)において、図1乃至図8に示す実施の形態と同一部分には同一符号を付して詳細な説明は省略する。

【0052】

図16(a)(b)において、板ゴム50の一端は容器本体11の上板27に水平方向に配置され、板ゴム50上からゴム押え79が、上板27に設けられて嵌合突起80に嵌合して板ゴム50を固定する。

【0053】

また、ゴム押え79は内側に突起79を有しており、この突起79を板ゴム50内に挿入することにより、板ゴム50の上板27に対する位置決めが行われる。

【0054】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、係止部と係合部の係合を解除することにより、開閉蓋が弾性付勢部材によって開く。開閉蓋は容器本体の側板に設けられているので、上板に設ける場合に比較して開閉蓋の形状を大きくとることができる。このように開閉蓋の形状を大きくすることにより上板のうち取出口の周縁面積を大きく取って内容物の取出作業を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明による開閉自在容器の全体斜視図。

【図 2】

閉時における開閉自在容器の全体斜視図。

【図 3】

開閉蓋の係合片と容器本体の係合突起を示す拡大断面図。

【図 4】

ウェットティッシュを収納した密閉袋を示す側断面図。

【図 5】

容器本体と開閉蓋との揺動部を示す拡大断面図。

【図 6】

開閉自在容器の側断面図。

【図 7】

容器本体と底蓋の連結関係を示す図。

【図 8】

開閉蓋の揺動軸と容器本体の受部を示す斜視図。

【図 9】

本発明による開閉自在容器の他の実施の形態を示す側断面図。

【図 10】

図 9 に示す開閉自在容器の拡大図。

【図 11】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す断面図。

【図 12】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す断面図。

【図 13】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す断面図。

【図 14】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す断面図。

【図15】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す断面図。

【図16】

本発明による開閉自在容器の更に他の実施の形態を示す図。

【符号の説明】

- 10 開閉自在容器
- 11 容器本体
- 12 底蓋
- 13 側板
- 23 開閉蓋
- 24 取出口
- 27 上板
- 28 段部
- 31 傾斜板
- 31a 領域
- 32 係止片
- 33 係合突起
- 35 薄肉部
- 37 枠体
- 40 密閉袋
- 41 ウェットティッシュ
- 50 板ゴム
- 51 外リブ
- 52 内リブ
- 55 作動体
- 55a 垂直板
- 55b 水平板
- 56 作動体
- 56a 垂直板

5 6 b 水平板

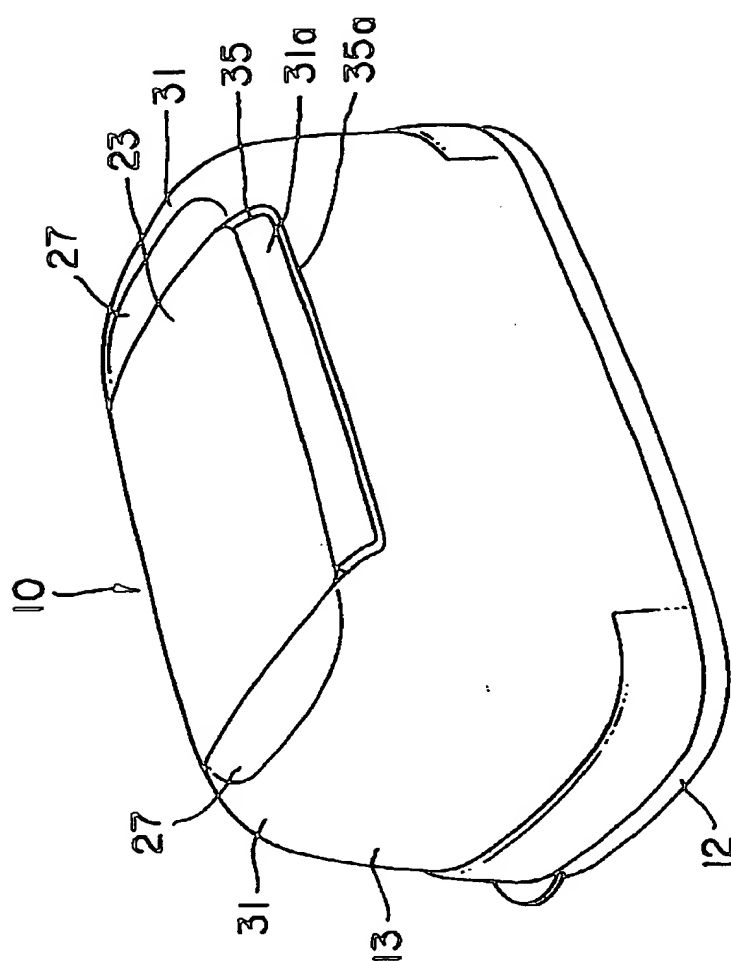
5 6 c 連結板

7 5 収納部

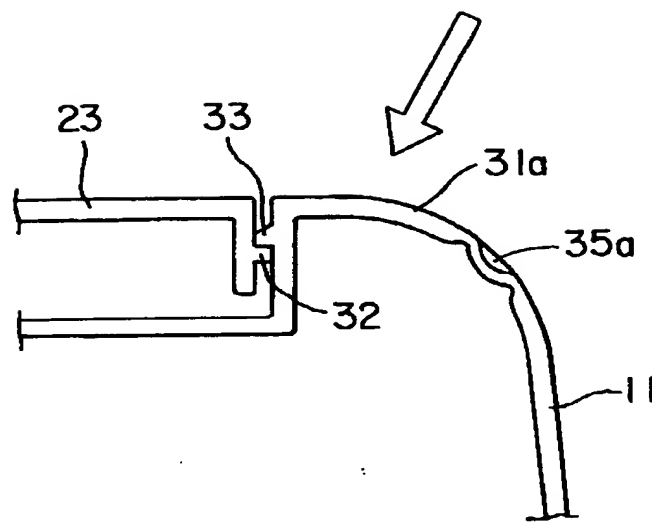
7 6 固着部

7 7 揺動軸

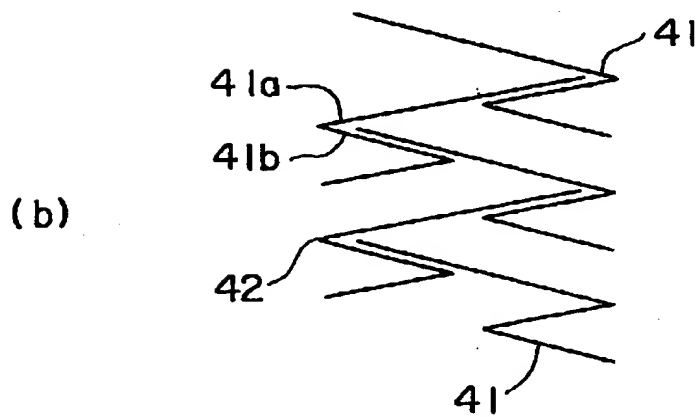
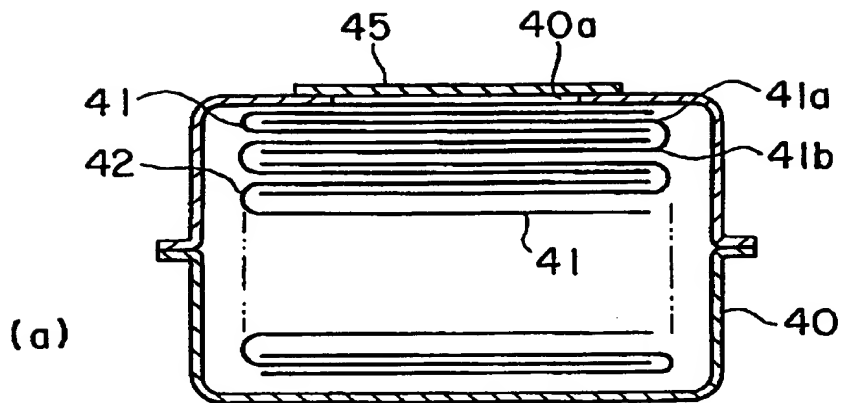
【圖 2】



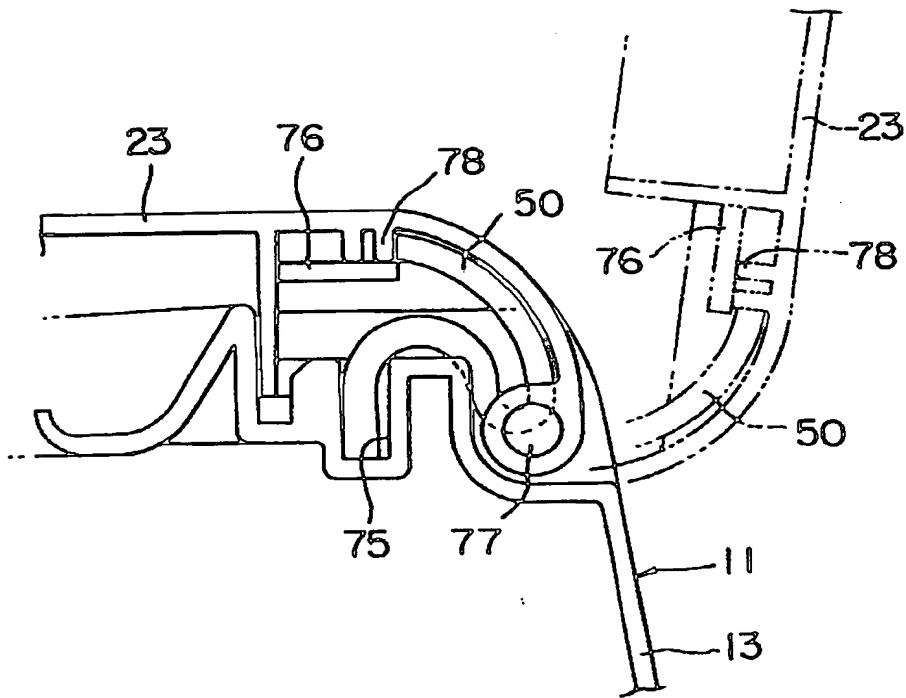
【図3】



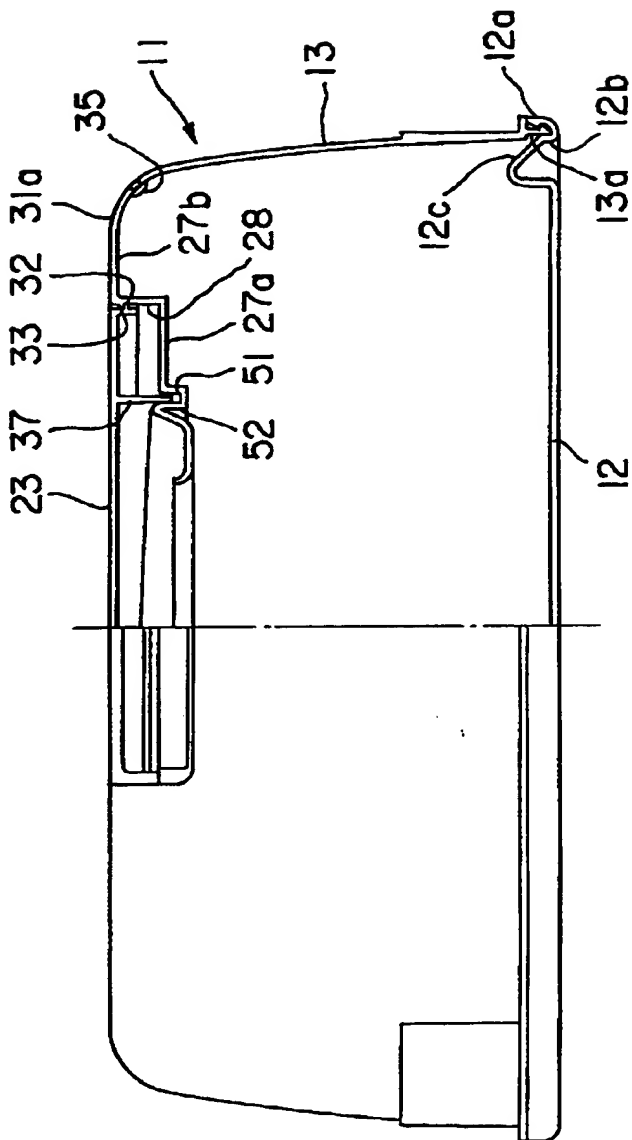
【図4】



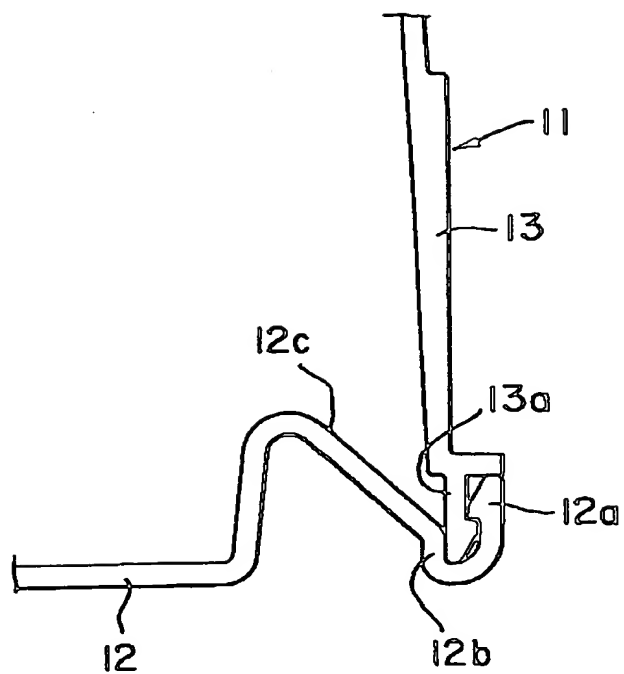
【図5】



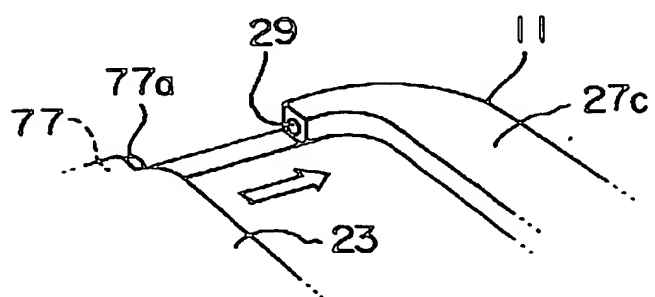
【図6】



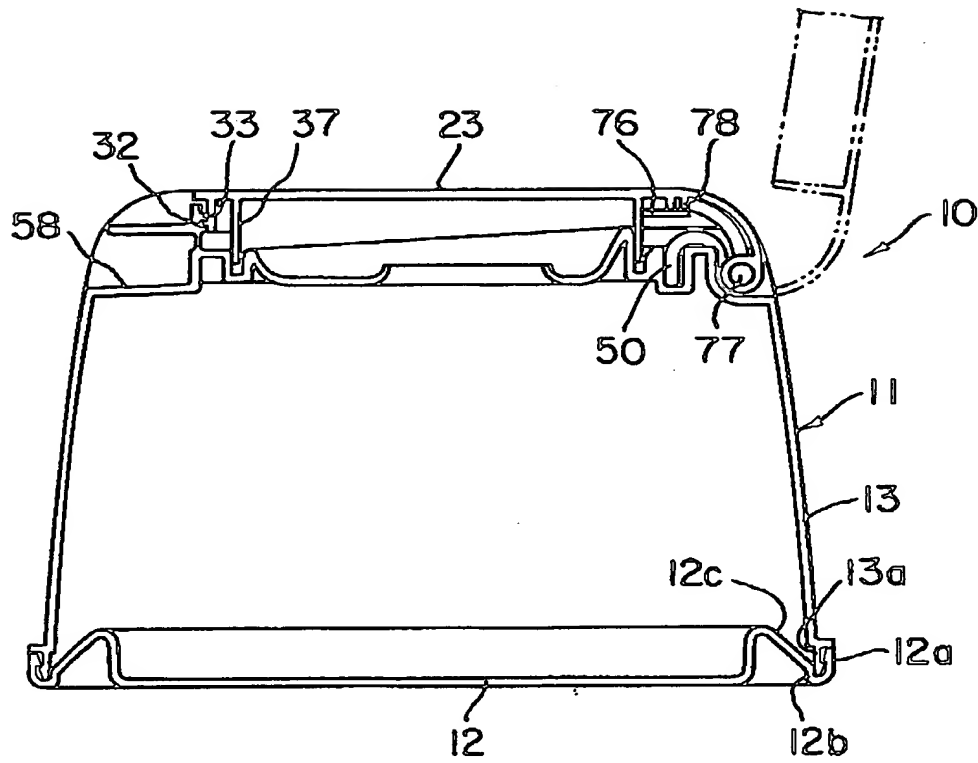
【図7】



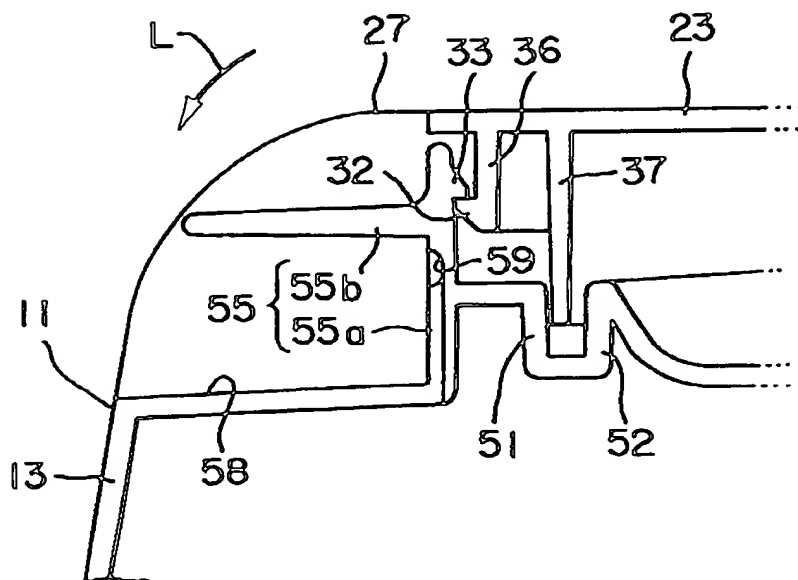
【図8】



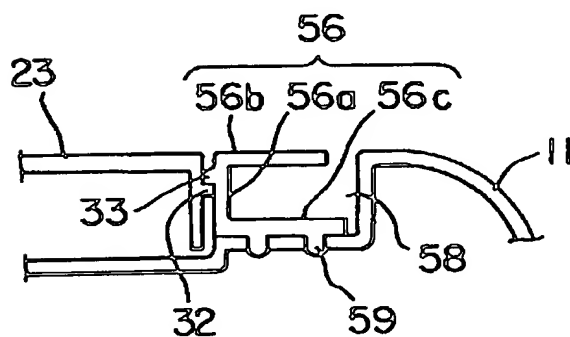
【図9】



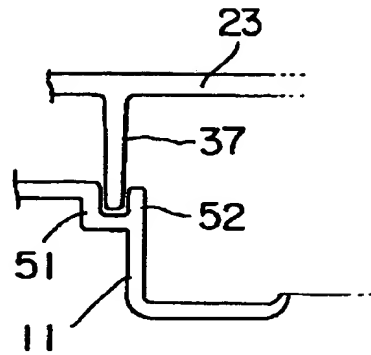
【図10】



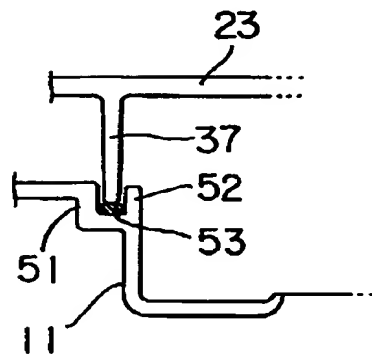
【図11】



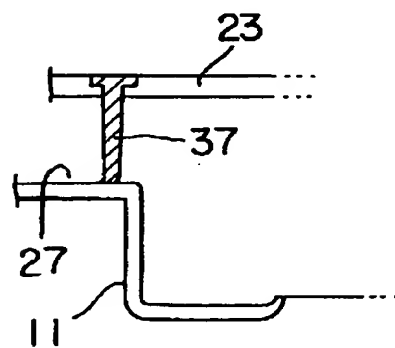
【図12】



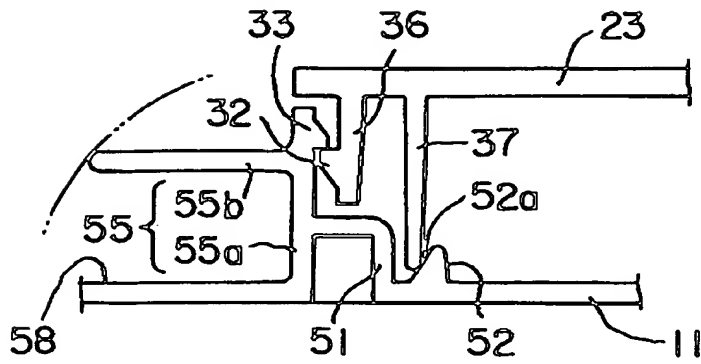
【図13】



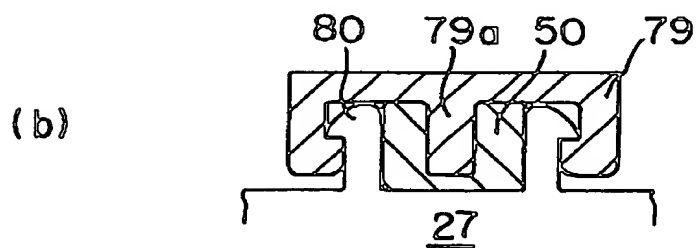
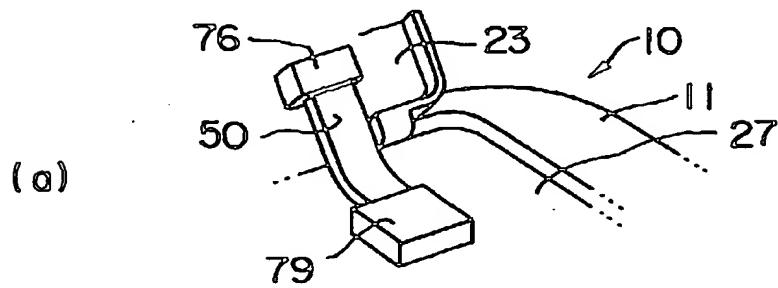
【図14】



【図15】



【図16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容易かつ確実に容器本体に対して開閉蓋を開閉することかでき、かつ容器本体の取出口周縁面積を大きくしてウェットティッシュの取出作業を容易にする。

【解決手段】 開閉自在容器10は容器本体11と、この容器本体11に揺動自在に取付けられた開閉蓋23と、容器本体11の下方開口を密閉する底蓋12とを備えている。容器本体11と開閉蓋23との間の揺動部分に、板ゴム50が設けられている。容器本体11は取出口24を有する上板27と、側板13とを有し、開閉蓋23は容器本体11の側板13に取付けられている。開閉蓋23は側板13に取付けられているため、その形状を大きくすることかできる。容器本体11には、開閉蓋23の係止片32に係合する係合突起33が設けられている。

【選択図】 図1

【書類名】
【訂正書類】

職権訂正データ
特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】

000115108

【住所又は居所】

愛媛県川之江市金生町下分182番地

【氏名又は名称】

ユニ・チャーム株式会社

【特許出願人】

【識別番号】

000002897

【住所又は居所】

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

【氏名又は名称】

大日本印刷株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】

100064285

【住所又は居所】

東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル 協和
特許法律事務所内

【氏名又は名称】

佐藤 一雄

【選任した代理人】

【識別番号】

100069523

【住所又は居所】

東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル 協和
特許法律事務所内

【氏名又は名称】

前島 旭

【選任した代理人】

【識別番号】

100091982

【住所又は居所】

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 富士ビル
協和特許法律事務所

【氏名又は名称】

永井 浩之

【選任した代理人】

【識別番号】

100096895

【住所又は居所】

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 協和特許法
律事務所内

【氏名又は名称】

岡田 淳平

特平 9-282148

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000115108]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	愛媛県川之江市金生町下分182番地
氏 名	ユニ・チャーム株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002897]

1. 変更年月日	1990年 8月27日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
氏 名	大日本印刷株式会社

THIS PAGE BLANK (USPTO)